

大津町浄化センター等包括的民間委託

要求水準書

令和8年1月8日

熊本県大津町

目次

第1．事業概要	1
1 委託の目的	1
2 委託期間	1
3 委託の範囲	1
第2．受託者の責任及び義務	2
第3．要求水準	2
第4．遵守すべき性能基準	3
第5．性能未達成時の定義	4
第6．性能未達成時の取り扱い	4
第7．受託者の責任の免除	5
第8．施設の運転管理及びその関連業務	5
1 運転管理業務	5
2 保守管理業務	6
3 水質等試験業務	7
4 臭気測定業務	7
5 管理棟清掃業務	7
6 植栽管理業務	7
7 ユーティリティ調達及び管理業務	7
8 修繕業務	7
9 浄化センター等自家用電気工作物保安管理業務委託	8
10 浄化センター中央監視・計装設備保守点検業務	8
11 汚泥等搬出業務	8
12 防火設備保守点検業務	8
13 保守点検業務	8
14 その他の主要業務	8
別紙―1 水質等試験業務要領	9
別紙―2 臭気測定業務要領	14
別紙―3 管理棟清掃業務要領	16
別紙―4 植栽管理業務要領	18
別紙―5 ユーティリティ調達及び管理業務要領	20
別紙―6 修繕業務要領	21
別紙―7 浄化センター等自家用電気工作物保安管理業務要領	24
別紙―8 浄化センター中央監視・計装設備保守点検業務要領	25
別紙―9 汚泥等搬出業務要領	28
別紙―10 防火設備保守点検業務要領	29
別紙―11 保守点検業務要領	30
別紙―12 性能未達成時の対応方法	33

第 1．事業概要

「大津町浄化センター等包括的民間委託」（以下「本委託」という。）について、管理運営における民間の創意工夫及びノウハウの活用を期待し、受託者に本質的に求めている事項である。委託の目的、委託期間及び委託範囲に分けて以下に示す。

1 委託の目的

本委託は、本町が所有する浄化センター、室污水中継ポンプ場、引水污水中継ポンプ場、吹田マンホールポンプ（以下浄化センター等という。）に関し、これら施設の基本性能を発揮させ、その安全性及び安定性を確保しつつ、効率的かつ総合的、一体的に管理運営することを目的とするものである。

2 委託期間

本委託の委託期間は、令和 8 年 4 月 1 日から令和 11 年 3 月 31 日までとする。

ただし、受託者を決定した日から令和 8 年 3 月 31 日までの期間（約 30 日間）は、業務引継ぎ及び研修期間として、事務引継ぎ・研修業務を行うものとする。業務引継ぎ・研修期間内におけるスケジュール、業務運営方法等の詳細については、本町と受託者双方協議を行う。

また、業務引継ぎ・研修期間内に要する費用については受託者の負担とする。

3 委託の範囲

受託者が実施する業務範囲は、本町の浄化センター等の維持管理に関する業務である。

ア 保守点検業務

イ 運転操作監視業務

ウ 水質等試験業務（別紙－ 1 に示す内容）

エ 臭気測定業務（別紙－ 2 に示す内容）

オ 污水中継ポンプ場維持管理・巡回業務

カ 管理棟清掃業務（別紙－ 3 に示す内容）

キ 植栽管理業務（別紙－ 4 に示す内容）

ク ユーティリティ調達及び管理業務（別紙－ 5 に示す内容）

ケ 修繕業務（別紙－ 6 に示す内容）

コ 浄化センター等自家用電気工作物保安管理業務（別紙－ 7 に示す内容）

サ 浄化センター中央監視・計装設備保守点検業務（別紙－ 8 に示す内容）

シ 汚泥等搬出業務（別紙－ 9 に示す内容）

ス 防火設備保守点検業務（別紙－ 10 に示す内容）

セ 保安点検業務（別紙－ 11 に示す内容）

第２．受託者の責任及び義務

- 1 受託者は、第７．に示す場合を除き、第３．に示す要求性能を発揮するよう浄化センター等の運転を行わなければならない。
- 2 受託者は、契約開始時に確認した浄化センター等の施設及び設備の機能の保持に努め、過度な劣化が生じないよう適性に運転及び管理を行わなければならない。
- 3 受託者は、予定された修繕を行うとともに、施設・設備の長寿命化を図るような保守点検を行わなければならない。
- 4 受託者は、事業を円滑に遂行する為に、浄化センター等の運転に関して必要な運転教育を行わなければならない。なお、運転教育の受講に係る費用等は受託者の負担とする。
- 5 受託者は、事業期間中、「下水道法」、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」「労働安全衛生法」等の関係法令等を遵守しなければならない。
- 6 本町が受託者の運転や設備の点検等を含む管理運営全般に対する立ち入り検査を行う時や施設・設備の増設、改築等を行う時は、受託者は、その監査、検査、工事等に全面的に協力し、要求する資料等を速やかに提出しなければならない。
- 7 災害その他不測の事態により、施設・設備への被害が生じた場合には、受託者は、本町に全面的に協力しなければならない。
- 8 受託者は、施設の管理運営に当たっては、地元よりの雇用促進に配慮するとともに、必要となる資材等を調達する場合は極力地元より調達すること。
- 9 受託者は、見学者への説明、案内を行うとともに、見学者の安全確保に努めなければならない。
- 10 受託者は、施設内外の清掃や整理整頓を行うとともに、地域貢献に努めなければならない。
- 11 受託者は、環境に対して十分配慮し、環境負荷の軽減に向けた取り組みを推進すること。
- 12 受託者は、保守点検、修繕業務その他業務により、施設及び設備の状況を把握し、設備機能調査票を随時修正しなければならない。その場合、施設機能及び性能の劣化が見られる箇所については、図面や写真、記録等を使用して、場所や内容が分かる資料を監督職員に提出しなければならない。
- 13 受託者は、業務内容の不備により発注者から指摘を受けた場合には、速やかに手直し等を行わなければならない。

第３．要求水準

要求水準項目は、浄化センターの放流水質（ＢＯＤ、ＣＯＤ、ＳＳ）、脱水ケーキ含水率、臭気とする。

また、要求水準は、目標基準（受託者の努力目標）と遵守基準（ペナルティー対象）について定める。

- 1 受託者は、表－１に定める放流水質基準、表－２に定める脱水ケーキ含水率基準、表－３に定める臭気基準を満たすことを目標に浄化センター等の運転管理を行うものとする。
- 2 受託者が前項の要求水準を満たすことができなかった場合は、受託者は速やかに発注者に報告するものとする。発注者は、受託者に対して改善計画書の提出を求め、要求水準を満たすよう指示することができる。

- 3 受託者は、前項の指示について目標基準を満たすよう努めなければならない。
- 4 発注者は、受託者が改善計画書通りに業務を行わない場合、受託者に説明を求め、正当な理由が認められない場合には、第 6 . 第 1 項により業務委託料を減額することができる。

表－ 1 放流水質基準 単位：mg/L

項 目	B O D	C O D	S S	備 考
目標基準	7.0	13.0	10.0	努力目標、現況平均値
遵守基準	12	20	40	遵守値、B O D：漁協協定値 C O D：県上乘せ排水基準

注) その他の項目は、下水道法第 8 条に基づく施行令第 6 条の規定値を遵守すること

表－ 2 脱水ケーキ含水率基準 単位：%

項 目	含水率	備 考
目標基準	80	努力目標、現況平均値
遵守基準	83	遵守値、設計基準値

表－ 3 臭気基準 単位：ppm

分析項目	遵守基準	分析項目	遵守基準
アンモニア	1.0	トリメチルアミン	0.005
メチルメルカプタン	0.002	プロピオン酸	0.03
硫化水素	0.02	ノルマル酪酸	0.006
硫化メチル	0.01	ノルマル吉草酸	0.0009
二硫化メチル	0.009	イソ吉草酸	0.001

注) 臭気基準は、熊本県の規制基準を参考とする。

第 4 . 遵守すべき性能基準

- 1 受託者は、表－ 1 に定める放流水質遵守基準、表－ 2 に定める脱水ケーキ含水率遵守基準、表－ 3 に定める臭気遵守基準を満たすことを目標に浄化センター等の運転管理を行うものとする。

第 5. 性能未達成時の定義

- 1 性能未達成とは、表－ 4 に定める流入条件（想定流入水量）及び表－ 5 に定める流入条件（想定最大流入水質）の範囲内において、第 4. で定めた遵守すべき性能基準を達成できなかった場合とする。

表－ 4 想定流入水量 単位：m³/日

項 目	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	備 考
日平均流入水量	10,519	10,627	10,793	現況値から推定
日最大流入水量	13,600	13,600	13,600	整備計画から推定

表－ 5 想定最大流入水質 単位：mg/L

項 目	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	備 考
B O D	600	600	600	下水道条例参考
C O D	300	300	300	現況値から推定
S S	600	600	600	下水道条例参考

第 6. 性能未達成時の取扱い

- 1 性能未達成時の場合は、発注者が算定した委託契約金月額に性能（遵守基準）未達成日数当たり 5 % を乗じた金額を減額する。なお、性能未達成日数とは、発注者が性能未達成を確認した日から、改善を確認した日の間の日数とする。
- 2 第 3. 第 4 項に該当する場合は、前項の範囲内で減額することができる。
ただし、目標基準については、現状の平均値程度としているものの、一般的にはかなり厳しい数値であるため、目標基準を超えても委託費の減額は課さないが、早急な原因追求、改善や対策を要求する。また、業務評価の対象とする。
- 3 発注者が受託者に要求する是正勧告やその他の措置は以下のとおりとする。

①第 1 段階

流入条件（最大水量、最大水質）の範囲内において、遵守基準を超えたことが確認された場合には、発注者は 1 回目の是正勧告を行い、受託者は速やかに改善計画書を提出し、それに基づいて改善や対策を行う。

②第 2 段階

発注者立会いのもと、受託者の費用にてモニタリングし、是正が不十分と判断された場合には、2 回目の是正勧告を行うとともに、業務担当者の変更及び委託費の減額を行う。

③第 3 段階

さらに、発注者立会いのもと、受託者の費用にてモニタリングを継続し、是正が不十分と判断された場

合には、維持管理能力がないものとして本契約を解除するとともに、違約金を徴収する。

なお、違約金は、委託契約金総額の 10 分の 1 に相当する額とする。但し、履行済みの部分に対応する金額は、委託契約金総額に算入しないものとする。

性能未達成時の対応方法は、別紙－12 参照のこと。

4 性能未達成時における業務改善や施設改善等に係る費用は、受託者の負担とする。

第 7．受託者の責任の免除

1 発注者は、次の条件下においては、性能未達成時であっても、受託者に責任を求めないものとする。

①表－4 に示す想定流入水量及び表－5 に示す想定最大流入水質を逸脱している場合

②浄化センター等の施設又は水質に重大な影響を及ぼす有害物質、化学物質等が流入した場合

③天災に起因した場合

④その他受託者の責務に帰することができない外的要因によると公正に判断できる場合

2 前項各号に掲げた事態が発生した場合は、受託者は緊急措置を講じた上で、その事態の内容、想定される浄化センター等への影響及び緊急措置の内容を速やかに発注者へ報告しなければならない。

第 8．施設の運転管理及びその関連業務

1 運転管理業務

①運転管理の水準

ア 受託者は、業務の履行に必要とする関係法令その他関係書類等を熟知し、その定めるところに従って業務を履行すること。

イ 受託者は、設備の構造、動作特性、管理状況及び諸性能を熟知し、日常はもちろんのこと、故障、事故時においても迅速かつ適切に処置できるよう心掛けること。

②水量・水質等の把握

受託者は、下水の量及び水質に応じた水処理を行い、その処理水が常に要求水準を満足するように水処理工程の水質を把握すること。また、発生污泥量に留意し、脱水ケーキ含水率が常に要求水準を満足するように污泥処理工程の適正化に努めること。

③巡視点検等

受託者は、浄化センター等の運転状況の確認及び設備機器の異常の早期発見に努めるため、少なくとも 1 日 1 回以上は巡視点検を実施するものとし、処理状況及び設備の状況に応じて定期的に回数を定めて又は随時に実施すること。

巡視点検に当たっては、機器の状態に注意し、特に異音、振動、臭気、過熱の有無、計器の指示値等に注意すること。

④電力の調達

浄化センター等の運転管理を良好に行うために、安定した電力の調達を必要とする。この電力の調達については、受託者にて実施すること。

⑤薬品、燃料等の調達

浄化センター等の運転管理を行うために、必要となる薬品、燃料等の調達については、受託者にて実施すること。

なお、受託者が浄化センター等において使用する薬品については、予め発注者と協議を行い、承認を得た上で使用すること。

⑥上水の調達

浄化センター等の運転管理や事務管理等を行うために、必要となる上水の調達については、受託者にて実施すること。

⑦文書の管理

浄化センターでは、運転管理、維持管理等を良好に行う上で必要となる図書その他の文章を保管しており、これらの文章の毀損・滅失がないよう、受託者は適切に保管すること。

また、発注者の指示に従い、必要な修正、追録、廃棄を行うこと。

⑧消耗品、備品類の調達及び管理

浄化センター等の保守管理を行うために必要となる消耗品類の調達は、受託者にて実施し、適切に管理すること。

⑨環境衛生管理

受託者は、本委託の実施に当たって、地域住民の生活環境に十分配慮し、適正な環境衛生管理を行うこと。また、事業に使用する建物内外は、日常清掃を励行し、清潔に保持すること。

⑩データの記録と報告

受託者は、運転管理に係るデータを記録し、速やかに報告すること。

データの項目、記録の方法等については、事業開始に先立つ計画書の中に明示し、発注者と協議の上決定するものとする。

2 保守管理業務

①保守管理の水準

受託者は、委託期間終了時、委託範囲における全ての施設が通常の施設運営を行うことができる機能を有し、著しい損傷がない状態で発注者に引渡しが行えるよう関係法令等を遵守し、適切な維持管理を行うこと。

②建築設備保守管理

受託者は、管理棟、水処理施設、污泥処理施設、汚水中継ポンプ場等の建築設備について、その機能を良好に保つよう保守管理を行うこと。

③機械、電気、計装設備保守管理

機械、電気、計装設備は、何らかの故障や事故が発生するとプラント全体を停止させるような事態が生じることもあるため、受託者は、設備の構造や特性はもとより、浄化センター等のシステム全体を熟知し、保守管理を行うこと。

なお、高圧電気設備の精密点検等の基幹的保守を適切に行うこととし、日常の点検についてはその保安規定及び指示に従うこと。

④水槽等の保守管理及び清掃等

受託者は、水処理施設、汚泥処理施設、汚水中継ポンプ場等に設置されている水槽、タンク等について、その機能に支障がないように定期的に点検し、必要に応じて清掃を実施すること。

⑤備品等の保守管理

受託者は、浄化センター等の維持管理を良好に行うための備品の保守及び管理を行うこと。

⑥データの記録と報告

受託者は、保守管理に係るデータを記録し、速やかに報告すること。

データの項目、記録の方法等については、事業開始に先立つ計画書の中に明示し、発注者と協議の上決定するものとする。

3 水質等試験業務

①受託者は、別紙－ 1 に示すとおりに水質等試験を行い、運転管理に活かすこと。

②受託者は、法定試験、事業所排水及び河川水質について、公的検査機関又は環境計量証明事業所の計量証明書を提出すること。

③受託者は、水質異常時や異常流入時等には、適切な水質管理を行う上で必要な水質試験分析及び調査を行うものとする。

④受託者は、水質等試験に係るデータを記録し、速やかに報告すること。データの項目、記録の方法等については、事業開始に先立つ計画書の中に明示し、発注者と協議の上決定するものとする。

4 臭気測定業務

①受託者は、別紙－ 2 に示すとおりに臭気測定を行うこと。

②受託者は、測定結果について、公的検査機関又は環境計量証明事業所の計量証明書を提出すること。

③受託者は、臭気測定に係るデータを記録し、速やかに報告すること。データの項目、記録の方法等については、事業開始に先立つ計画書の中に明示し、発注者と協議の上決定するものとする。

5 管理棟清掃業務

管理棟清掃は、別紙－ 3 に示すとおりに行うこと。

6 植栽管理業務

植栽管理は、別紙－ 4 に示すとおりに行うこと。

7 ユーティリティ調達及び管理業務

ユーティリティ調達及び管理は、別紙－ 5 に示すとおりに行うこと。

8 修繕業務

①受託者は、浄化センター等で予定している修繕を確実にを行い、処理機能等の低下を防止するとともに、予定外の設備でも適切な判断のもと簡易な修繕を行い、設備の長寿命化を図ること。ただし、受託者の判断で、予定している修繕が不要と判断される場合は、発注者に申し出て協議すること。

②受託者は、委託期間内において、突発的に生じた設備等の故障、不良、破損などについては、暫定措置を講じるとともに、発注者と協議の上その修繕工事を行うこと。

ただし、協議により、突発修繕費が委託の範囲を超えると判断した場合は、発注者の負担とする。

③受託者は、修繕結果を記録し、速やかに報告すること。

データの項目、記録の方法等については、事業開始に先立つ計画書の中に明示し、発注者と協議の上決定するものとする。

④委託期間に予定している修繕は、別紙－６に示すとおりである。

9 浄化センター等自家用電気工作物保安管理業務

浄化センター等自家用電気工作物保安管理は、別紙－７に示すとおりに行うこと。

10 浄化センター中央監視・計装設備保守点検業務

中央監視・計装設備保守点検は、別紙－８に示すとおりに行うこと。

11 汚泥等搬出業務

汚泥等搬出は、別紙－９に示すとおりに行うこと。

12 防火設備点検業務

防火設備点検は、別紙－１０に示すとおりに行うこと。

13 保守点検業務

保守点検業務は、別紙－１１に示すとおりに行うこと。

14 その他の主要業務

①施設の警備等の保安管理業務

②施設見学者の誘導、案内、説明等業務

③緊急時（風水害、地震、流入異常、洪水警戒体制時等）における発注者への協力業務

④その他業務対象施設の保全に必要な事項

別紙— 1 水質等試験業務要領

1 水質等試験業務の内容は次のとおりとする。

- (1) 日常試験：週 2 ～ 3 回実施
- (2) 中試験：週 1 回
- (3) 精密試験：月 1 ～ 2 回実施又は年 4 回実施又は年 2 回実施（法定試験）
- (4) 通日試験：年 2 回実施
- (5) 汚泥試験：年 2 回実施

2 上記各試験の試験項目及び採水箇所は次のとおりとする。

(1) 水質試験

凡 例						
○	日常試験（週 3 回）	▲	精密試験（月 1 回）	■	精密試験（年 2 回）	
●	日常試験（週 2 回）	△	精密試験（月 2 回）	★	通日試験	
◎	中試験（週 1 回）	□	精密試験（年 4 回）			
項 目	採水箇所	沈砂池	最初沈殿池		最終沈殿池	吐き口
		流入口	流入口	流出口	流出口	放流口
水温		○★	○	○★	○★	○★
透視度		—	—	—	○	○
p H		○★	○	○★	○★	○★△
S S		○★	○	○★	○★	○★△
D O		—	—	—	—	◎
B O D		◎★	◎	◎	◎★	◎★△
C O D		◎★		◎★	◎★	○★△
大腸菌数		□	—	—	—	◎△
残留塩素		—	—	—	—	◎
全窒素		□	—	—	—	△
アンモニア性窒素		□	—	—	—	□
亜硝酸性窒素		□	—	—	—	□
硝酸性窒素		□	—	—	—	□
全りん		□	—	—	—	△
ノルマルヘキサン抽出物質		□	—	—	—	□
フェノール類含有量		□	—	—	—	□
銅含有量		□	—	—	—	□
溶解性鉄含有量		□	—	—	—	□
亜鉛含有量		□	—	—	—	□
溶解性マンガン含有量		□	—	—	—	□
クロム含有量		□	—	—	—	□
ほう素及びその化合物		□	—	—	—	□
ふっ素及びその化合物		□	—	—	—	□
六価クロム化合物		□	—	—	—	□
シアン化合物		□	—	—	—	□
カドミウム及びその化合物		□	—	—	—	□
鉛及びその化合物		□	—	—	—	□
ひ素及びその化合物		□	—	—	—	□

項 目	採水箇所	沈砂池	最初沈殿池		最終沈殿池	吐き口
		流入口	流入口	流出口	流出口	放流口
有機りん化合物		□	—	—	—	□
総水銀		□	—	—	—	□
アルキル水銀化合物		□	—	—	—	□
ポリ塩化ビフェニール		□	—	—	—	□
陰イオン界面活性剤		□	—	—	—	□
トリクロロエチレン		□	—	—	—	□
テトラクロロエチレン		□	—	—	—	□
ジクロロメタン		—	—	—	—	■
四塩化炭素		—	—	—	—	■
1,2-ジクロロエタン		—	—	—	—	■
1,1-ジクロロエチレン		—	—	—	—	■
シス-1,2-ジクロロエチレン		—	—	—	—	■
1,1,1-トリクロロエタン		—	—	—	—	■
1,1,2-トリクロロエタン		—	—	—	—	■
1,3-ジクロロプロペン		—	—	—	—	■
チラウム		—	—	—	—	■
シマジン		—	—	—	—	■
チオベンカルブ		—	—	—	—	■
ベンゼン		—	—	—	—	■
セレン		—	—	—	—	■
1,4ジオキサン		—	—	—	—	■

注1) 年4回の実施月は、発注者と協議とする。

注2) 年2回の実施月は、発注者と協議とする。

項 目	採水箇所	反応タンク	返送汚泥
		3系列のうち2系列/年を実施	返送汚泥ピット
水温		○★	—
pH		○★	◎
SS		—	◎
MLDO		●★	—
MLSS		●★	—
強熱残留物		●	—
強熱減量		●	—
SV		○★	◎
SVI		●★	◎
生物検鏡		◎	—

(2) 汚泥試験

検 体	初沈汚泥	余剰汚泥	濃縮汚泥	1次 消化汚泥	2次 消化汚泥	脱離液	脱水ろ液	脱水 ケーキ
項 目								
pH	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	—
蒸発残留物	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎
強熱減量	◎	◎	◎	▲	◎	◎	◎	◎
アルカリ度	—	—	—	▲	—	—	—	—
含水率	—	—	—	—	—	—	—	◎
BOD	—	—	—	—	—	◎	—	—

(3) 脱水汚泥等の重金属溶出及び含有試験

年2回(5月、11月)実施する。

検 体		脱水汚泥等
項 目		
カドミウム及びその化合物	溶出	■
	含有	■
シアン化合物	溶出	■
有機りん化合物	溶出	■
亜鉛及び化合物	溶出	■
六価クロム化合物	溶出	■
ひ素及び化合物	溶出	■
	含有	■
総水銀	溶出	■
	含有	■
アルキル水銀化合物	溶出	■
ポリ塩化ビフェニール	溶出	■
亜鉛含有量	含有	■
トリクロロエチレン	溶出	■
テトラクロロエチレン	溶出	■
全窒素	含有	■
カリウム	含有	■
ニッケル	含有	■
全りん	含有	■
ジクロロメタン	溶出	■
四塩化炭素	溶出	■
1,2-ジクロロエタン	溶出	■
1,1-ジクロロエチレン	溶出	■
シス-1,2-ジクロロエチレン	溶出	■
1,1,1-トリクロロエタン	溶出	■
1,1,2-トリクロロエタン	溶出	■
1,3-ジクロロプロペン	溶出	■
チウラム	溶出	■
シマジン	溶出	■
チオベンカルブ	溶出	■
ベンゼン	溶出	■
セレン	溶出	■
1・4-ジオキサン	溶出	■
クロム	含有	■
鉛	含有	■
前処理量	含有	■

(4) 事業所排水

事業所別の測定項目、回数は表のとおりとする。

項 目	信越石英	濱田重工	吉良食品	東洋新薬	アムコー・テクノロジー・ジャパン
pH	—	—	—	15 回	4 回
BOD	—	—	4 回	15 回	—
COD	—	—	—	15 回	—
SS	4 回	—	4 回	15 回	—
大腸菌数	—	—	—	—	—
全窒素	—	—	—	—	—
アンモニア性窒素	—	—	—	—	—
亜硝酸性窒素	—	—	—	—	—
硝酸性窒素	—	—	—	—	—
全りん	—	—	—	—	—
カドミウム化合物	—	—	—	—	—
シアン化合物	—	—	—	—	—
有機りん化合物	—	—	—	—	—
亜鉛及びその化合物	—	—	—	—	—
六価クロム化合物	—	—	—	—	—
ひ素及びその化合物	—	—	—	—	—
総水銀	—	—	—	—	—
アルキル水銀化合物	—	—	—	—	—
ポリ塩化ビフェニール	—	—	—	—	—
ルルハキサン抽出物質	—	—	—	—	—
フェノール類含有量	—	—	—	—	—
銅含有量	—	—	—	—	4 回
溶解性鉄含有量	—	—	—	—	—
亜鉛含有量	—	—	—	—	—
溶解性マンガン含有量	—	—	—	—	—
クロム含有量	—	—	—	—	—
ほう素及びその化合物	—	—	—	—	4 回
ふっ素及びその化合物	4 回	4 回	—	—	—
陰イオン界面活性剤	—	4 回	—	—	—
トリクロロエチレン	—	—	—	—	—
テトラクロロエチレン	—	—	—	—	—
よう素消費量	—	—	—	—	—
ジクロロメタン	—	—	—	—	—
四塩化炭素	—	—	—	—	—
1,2-ジクロロエタン	—	—	—	—	—

1,1-ジクロロエチレン	—	—	—	—	—
シス-1,2-ジクロロエチレン	—	—	—	—	—
1,1,1-トリクロロエタン	—	—	—	—	—
1,1,2-トリクロロエタン	—	—	—	—	—
1,3-ジクロロプロペン	—	—	—	—	—
チラウム	—	—	—	—	—
シマジン	—	—	—	—	—
チオベンカルブ	—	—	—	—	—
ベンゼン	—	—	—	—	—
セレン	—	—	—	—	—
1・4-ジオキサン	—	—	—	—	—

(5) 河川水質検査

年 1 回（9 月頃）7 箇所を実施する。測定項目は表のとおりとする。

なお、実施箇所は発注者が指示する。

項 目	箇所数
p H	7 箇所
B O D	7 箇所
C O D	7 箇所
S S	7 箇所
大腸菌数	7 箇所
全窒素	7 箇所
全りん	7 箇所

3 注意事項

- (1) 分析方法、有効桁数などは「下水試験方法（2012 年版）日本下水道協会」に準じて行うこと。
- (2) 精密試験（法定試験）、事業所排水及び河川水質は、公的検査機関又は環境計量証明事業所の計量証明書を提出すること。
- (3) 事業所排水の採水は発注者が行う。
- (4) 不明な点等あれば、速やかに発注者と協議すること。

別紙― 2 臭気測定業務要領

1 臭気測定箇所は次のとおりとする。

- (1) 敷地境界線 2 箇所（処理場および室ポンプ場）
- (2) 土壌脱臭床 3 箇所（水処理施設および第 2 汚泥処理施設、室ポンプ場）
（入口、出口）

2 臭気測定は年 1 回（1 月）実施し、測定項目は次のとおりとする。

(1) 敷地境界線

項 目	回数
アンモニア	1 回
トリメチルアミン	1 回
メチルメルカプタン	1 回
プロピオン酸	1 回
硫化水素	1 回
ノルマル酪酸	1 回
硫化メチル	1 回
ノルマル吉草酸	1 回
二硫化メチル	1 回
イソ吉草酸	1 回

(2) 土壌脱臭床

項目		回数
アンモニア	入口	1 回
	出口	1 回
硫化水素	入口	1 回
	出口	1 回
硫化メチル	入口	1 回
	出口	1 回
メチルメルカプタン	入口	1 回
	出口	1 回
二硫化メチル	入口	1 回
	出口	1 回

3 ダイオキシン測定

(1) 分析対象は次の通りとする。

浄化センター沈砂、し渣

(2) 分析は年1回実施し、試験項目は次の通りとする。

項目	数量
アルキル水銀	1 検体
総水銀	1 検体
カドミウム	1 検体
鉛	1 検体
有機燐	1 検体
六価クロム	1 検体
ヒ素	1 検体
シアン	1 検体
ポリ塩化ビフェニル	1 検体
トリクロロエチレン	1 検体
テトラクロロエチレン	1 検体
ジクロロメタン	1 検体
四塩化炭素	1 検体
1,2-ジクロロエタン	1 検体
1,1-ジクロロエチレン	1 検体
シス-1,2-ジクロロエチレン	1 検体
1,1,1-トリクロロエタン	1 検体
1,1,2-トリクロロエタン	1 検体
1,3-ジクロロプロペン	1 検体
チウラム	1 検体
シマジン	1 検体
チオベンカルブ	1 検体
ベンゼン	1 検体
セレン	1 検体
1,4-ジオキサン	1 検体

4 注意事項

- (1) 臭気測定は、悪臭防止法施行規則に定められている「臭気指数及び臭気排出強度の算定の方法」(平成7年環境庁告示第63号)及び「特定悪臭物質の測定の方法」(昭和47年環境庁告示第9号)によるものとする。
- (2) 臭気測定結果は、公的検査機関又は環境計量証明事業所の計量証明書を提出すること。
- (3) 測定の日時および場所は、発注者と協議によるものとする。

別紙— 3 管理棟清掃業務要領

1 清掃場所 大津町浄化センター管理棟

2 清掃作業内容

- (1) 1日4時間、1回/週（土日祭日を除く）の床及びトイレ清掃
- (2) 年1回の床洗浄、樹脂ワックス塗布仕上げ（12月）
- (3) 年1回のガラス窓清掃（12月）
- (4) 年1回の玄関ポーチガラス窓清掃（12月）

3 契約期間 令和 8 年 4 月 1 日から令和 11 年 3 月 31 日まで

4 清掃場所及び面積

場 所	面積 (㎡)	床仕様	備 考
地下階段室	15.6	フロアリューム	
1階風除室	17.6	磁器タイル	
玄関	5.1	磁器タイル	
玄関スロープ (1)	2.5	磁器タイル	
玄関スロープ (2)	8.1	フロアリューム	
下足室	13.0	フロアリューム	
玄関ホール	70.4	フロアリューム	
会議室	78.0	フロアリューム	週1回の清掃とする。
1階廊下	54.8	フロアリューム	
事務室	75.6	フロアリューム	
水質試験室	109.0	フロアリューム	
洗面所	8.6	フロアリューム	
1階トイレ	18.2	磁器タイル	
1階階段室	15.6	フロアリューム	
2階ホール	46.7	フロアリューム	
2階トイレ	5.3	磁器タイル	
2階階段室	15.6	フロアリューム	
管理制御室	109.2	P タイル	静電防止ワックス年1回
仮眠室	8.4	P タイル	静電防止ワックス年1回
床面積合計	677.3		
ワックス箇所面積合計	511.0		磁器タイル、P タイル除く

5 ガラス清掃の場所及び面積

場 所	面積 (㎡)	備 考
玄関	45.4	
会議室	23.4	
事務室	17.3	
水質試験室	18.5	
吹き抜け	15.3	高所作業を要する。
管理制御室	33.1	
宿直室	2.2	
玄関ポーチ	30.0	
ガラス面積合計	155.2	
玄関ポーチ合計	30.0	

作業予定表

令和8年度			令和9年度			令和10年度		
月	月別予定日	清掃時間 (hr) 清掃日数	月	月別予定日	清掃時間 (hr) 清掃日数	月	月別予定日	清掃時間 (hr) 清掃日数
4月	各週の火曜	16	4月	各週の火曜	16	4月	各週の火曜	16
		4.0			4.0			4.0
5月	各週の火曜	16	5月	各週の火曜	16	5月	各週の火曜	16
		4.0			4.0			4.0
6月	各週の火曜	16	6月	各週の火曜	16	6月	各週の火曜	16
		4.0			4.0			4.0
7月	各週の火曜	18	7月	各週の火曜	18	7月	各週の火曜	18
		4.0			4.0			4.0
8月	各週の火曜	16	8月	各週の火曜	16	8月	各週の火曜	16
		4.0			4.0			4.0
9月	各週の火曜	16	9月	各週の火曜	16	9月	各週の火曜	16
		4.0			4.0			4.0
10月	各週の火曜	16	10月	各週の火曜	16	10月	各週の火曜	16
		4.0			4.0			4.0
11月	各週の火曜	16	11月	各週の火曜	16	11月	各週の火曜	16
		4.0			4.0			4.0
○△□ 12月	各週の火曜	25	○△□ 12月	各週の火曜	25	○△□ 12月	各週の火曜	25
		4.0			4.0			4.0
1月	各週の火曜	16	1月	各週の火曜	16	1月	各週の火曜	16
		4.0			4.0			4.0
2月	各週の火曜	16	2月	各週の火曜	16	2月	各週の火曜	16
		4.0			4.0			4.0
3月	各週の火曜	16	3月	各週の火曜	16	3月	各週の火曜	16
		4.0			4.0			4.0
清掃時間 (時 /年)		203	清掃時間 (時 /年)		203	清掃時間 (時 /年)		203
清掃日数 (日 /年)		48.0	清掃日数 (日 /年)		48.0	清掃日数 (日 /年)		48.0

ワックス施工月	○
窓吹き施工月	△
玄関ポーチガラス吹き施工月	□

別紙— 4 植栽管理業務要領

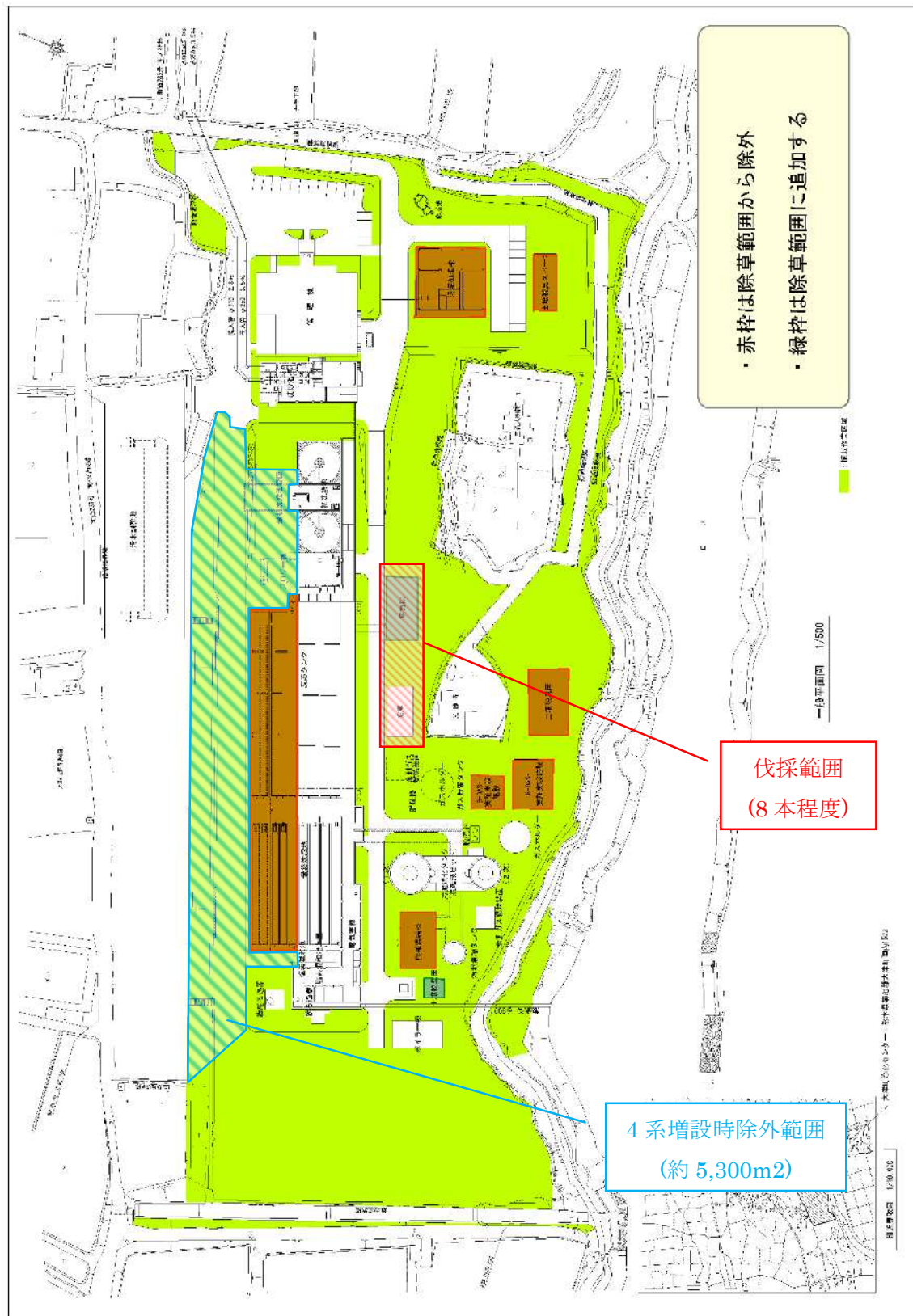
- 1 浄化センター内の植栽及び芝生等の管理を行う。
- 2 業務内容及び頻度、数量等は次表のとおりである。

費目	業務内容	頻度	数量等	単位	実施月
害虫駆除	越冬害虫駆除	1 回/年	1	式	適宜
	一般害虫駆除	3 回/年	1	式	適宜
除草	低木周り	4 回/年	2,780	m	5,7,9,3 月
除草(法面)	北	4 回/年	12,806	m ²	5,7,9,3 月
	西				
	南				
	管理棟駐車場				
樹木剪定	高木	1 回/年	—	本	適宜
	中木	1 回/年	—	本	適宜
	低木	2 回/年	2,617	m	梅雨期・11 月

※水処理 4 系工事期間中は除草（法面）の数量が「約 5,300m²」減少となる

- 3 業務範囲は別図のとおりである。
- 4 浄化センター内の中高木処理の伐採を行う。
- 5 注意事項
 - （1）作業時期は景観に配慮し、施設の維持管理上支障がないよう、発注者と協議して決定すること。
 - （2）除草、樹木剪定による発生材は、場外搬出のうえ適切に処分すること。
 - （3）薬剤、肥料、作業に必要な器具等は、受託者が用意すること
 - （4）浄化センター中高木の伐採は、R8 に実施を予定している。
伐採範囲については、「植栽管理業務範囲図」を参照する。

植栽管理業務範囲図



別紙―５ ユーティリティ調達及び管理業務要領

- 1 浄化センター、ポンプ場で使用するユーティリティは、全て受託者が調達し管理すること。ただし、受け渡し及び取扱い上の注意事項については、発注者の指示に従うものとする。
- 2 受託者が浄化センターにおいて使用する薬品については、予め発注者と協議を行い、承認を得た上で使用すること。
- 3 ユーティリティ種類、調達先、使用等は次表のとおりである。
- 4 次表に示すユーティリティのうち、変動要素の高い電力は、物価変動等により委託料の範囲内で調達が困難になった場合又は使用量の増減が著しく変動した場合に対して、その理由を明らかにした上で、委託料の額の変更について双方協議のうえ決定する。

項目	調達先	仕様等
電力	九州電力	契約電力 浄化センター 229.4kW 室ポンプ場 35kW 引水ポンプ場 10.5kW 吹田ポンプ場 19kW
水道	大津菊陽水道企業団	契約口径 浄化センター φ50mm 室ポンプ場 φ13mm 引水ポンプ場 φ13mm 吹田ポンプ場 φ13mm
ガス		
殺菌用薬品	－	次亜塩素酸ナトリウム 12%
高分子凝集剤	－	ダイヤブロック同等品
ポリ硫酸第二鉄	－	汚泥脱水用
潤滑油類	－	オイル、グリース等の補充および交換用
燃料	－	A 重油（自家発用）、プロパンガス、ガソリン（非常用発電機用）、軽油（自家発用）、混合油（刈払機用）
塗料	－	
水質試験用薬品	－	
水質試験用消耗品	－	
保守用消耗品	－	
機械類補修部品	－	
水質試験用機器	－	R8～R10（数量：各品 1） DO 計電極ふらん瓶用、pH 計電極、ポータブル DO 計電極、ポータブル pH 計電極、デジタルビュレット
浄化センター濾材	－	

別紙― 6 修繕業務要領

契約期間中に予定している修繕は次表のとおりである。

(1) 機械 (大津町浄化センター)

項 目	R8	R9	R10	備 考
空調機洗浄修理①中央、水質	○			
空調機洗浄修理②会議室、事務所		○		
空調機洗浄修理③作業員控、機械電気、脱水電気			○	
空調機点検整備①中央、機械電気	○			
空調機点検整備②水質、事務所		○		
空調機点検整備③会議室、作業員控			○	
沈砂池設備 床排水ポンプ整備	○			
No.2 初沈スカム移送ポンプ整備		○		
No.2 初沈汚泥ポンプ整備			○	
初沈設備 床排水ポンプ整備	○			
No.1 送風機分解整備		○		
No.2 送風機分解整備			○	
No.3 送風機分解整備	○			
No.4 送風機分解整備			○	
送風機室排風ファン整備	○			
終沈No.1 スカム移送ポンプ点検整備	○			
終沈No.2 スカム移送ポンプ点検整備		○		
終沈設備 No.1 床排水ポンプ整備			○	
終沈設備 No.2 床排水ポンプ整備			○	
No.2 汚泥棟送水ポンプ点検整備	○			
No.2 給水ポンプ点検整備	○			
水処理設備給水ユニット整備		○		
消泡水ストレーナー整備		○		
No.2 逆洗ポンプ点検整備		○		
No.2 逆洗排水ポンプ整備		○		
砂ろ過設備 No.1 空気圧縮機整備	○			
砂ろ過設備 No.2 空気圧縮機整備	○			
No.1 逆洗ブロワ分解整備		○		
No.2 逆洗ブロワ分解整備		○		
No.3 逆洗ブロワ分解整備		○		
繊維ろ過器タンク補修		○		

繊維ろ過ストレーナー整備			○	
No.1 砂ろ過器原水ポンプ取替			○	
No.2 砂ろ過器原水ポンプ取替			○	
No.3 砂ろ過器原水ポンプ取替			○	
No.4 砂ろ過器原水ポンプ取替		○		
No.5 砂ろ過器原水ポンプ取替			○	
砂ろ過ストレーナー整備		○		
No.1 水処理脱臭床 排水ポンプ整備			○	
No.2 水処理脱臭床 排水ポンプ整備			○	
No.2 重力濃縮汚泥ポンプ整備	○			
重力濃縮しきスクリーン整備			○	
機械濃縮機ろ布交換	○			
機械濃縮余剰汚泥スクリーン整備	○			
No.1 機械濃縮余剰汚泥ポンプ整備		○		
No.1 機械濃縮濃縮汚泥移送ポンプ整備			○	
No.1 機械濃縮薬品供給ポンプ整備	○			
No.2 消化汚泥引抜弁整備	○			
重力濃縮汚泥投入弁整備		○		
脱水機給水ユニット整備	○			
No.2 脱水機給水ポンプ整備	○			
脱水機汚泥貯留槽攪拌機取替			○	
脱水機分離液貯留槽攪拌機取替		○		
No.1 脱水機制御盤点検			○	
脱水機設備重量シャッター点検整備	○	○	○	
消火器他取替	○			
熱感知器取替		○		
煙感知器取替			○	
火災受信機修繕	○			
無臭元シュアー100k-s	○	○	○	
無臭元シュアー1000	○	○	○	

(2) 電気 (大津町浄化センター)

項 目	R8	R9	R10	備 考
水処理設備電気部品交換	○	○	○	
汚泥処理設備電気部品交換	○	○	○	
可搬式非常用発電機点検整備		○		
ポンプ場電気設備点検整備	○	○	○	

(3) 室ポンプ場

項 目	R8	R9	R10	備 考
No.1 汚水ポンプ点検整備	○			
No.2 汚水ポンプ点検整備		○		
電磁流量計点検			○	

(4) 引水ポンプ場

項 目	R8	R9	R10	備 考
No.1 汚水ポンプ点検整備	○			
No.2 汚水ポンプ点検整備		○		
No.3 汚水ポンプ点検整備			○	

(5) 吹田ポンプ場

項 目	R8	R9	R10	備 考
No.1 汚水ポンプ点検整備		○		
No.2 汚水ポンプ点検整備			○	

別紙― 7 浄化センター等自家用電気工作物保安管理業務要領

1 大津町浄化センター

(1) 業務内容

設備名	設備容量(KVA)	頻 度	備 考
受電設備	500	1 回/隔月	
非常用発電設備	300	1 回/隔月	ディーゼル機関

2 室汚水中継ポンプ場

(1) 業務内容

設備名	設備容量(KVA)	頻 度	備 考
受電設備	45	1 回/隔月	
非常用発電設備	75	1 回/隔月	ディーゼル機関

3 引水汚水中継ポンプ場

(1) 業務内容

設備名	設備容量(KVA)	頻 度	備 考
受電設備	12	1 回/隔月	
非常用発電設備	25	1 回/隔月	ディーゼル機関

4 吹田マンホールポンプ場

(1) 業務内容

設備名	設備容量(KVA)	頻 度	備 考
受電設備	19	1 回/隔月	

5 注意事項

- (1) 本業務は、(財)九州電気保安協会に再委託して行うこととし、日常の点検についてはその保安規定及び指示に従うこと。
- (2) 作業の工程は、発注者と事前に協議すること。

別紙― 8 浄化センター中央監視・計装設備保守点検業務要領

(1) 浄化センター計装点検

項目	R8	R9	R10
汚水総流入量	○	○	○
低地用ポンプ井水位	○	○	○
汚水流入量	○	○	○
初沈流入量	○	○	○
No.1 初沈汚泥引抜量	○	○	○
No.2 初沈汚泥引抜量	○	○	○
No.1 送風量	○	○	○
No.2 送風量	○	○	○
No.3 送風量	○	○	○
No.1 反応タンクD O	○	○	○
No.2 反応タンクM L S S	○	○	○
No.3 反応タンクD O	○	○	○
No.3 反応タンクM L S S	○	○	○
返送汚泥量 (No. 1、2)	○	○	○
返送汚泥濃度 (No.1、2)	○	○	○
返送汚泥量 (No.3、4)	○	○	○
返送汚泥濃度 (No.3、4)	○	○	○
余剰汚泥量 (終沈)	○	○	○
No.1 終沈汚泥引抜量	○	○	○
No.2 終沈汚泥引抜量	○	○	○
No.3 終沈汚泥引抜量	○	○	○
次亜塩素酸ソーダ注入量	○		○
次亜塩素酸ソーダ貯留タンク水位	○		○
ろ過原水槽水位		○	
放流量	○	○	○
重力濃縮汚泥引抜量	○		○
機械濃縮受入汚泥供給流量		○	
機械濃縮受入汚泥貯留槽水位		○	
機械濃縮余剰汚泥供給量		○	
機械濃縮余剰汚泥供濃度		○	
機械濃縮余剰汚泥貯留槽水位		○	
機械濃縮濃縮汚泥移送流量		○	
機械濃縮濃縮汚泥移送濃度		○	

機械濃縮濃縮汚泥貯留槽水位		○	
機械濃縮薬品供給量		○	
機械濃縮薬品タンク水位		○	
消化槽分離液移送流量（消化槽送）			○
消化槽分離液移送流量（水処理送）			○
ガス貯留タンク容量	○		
余剰ガス燃焼量	○		
一次消化槽温度	○		
二次消化槽温度	○		
一次消化槽液位			○
二次消化槽液位			○
消化槽ガス圧力			○
脱水機No.1 汚泥供給量	○		○
脱水機No.2 汚泥供給量		○	
脱水機No.1 汚泥供給濃度	○		○
脱水機No.2 汚泥供給濃度		○	
脱水機No.1 薬品供給量	○		○
脱水機No.2 薬品供給量		○	
脱水機No.1 薬品タンク液位	○		○
脱水機No.2 薬品タンク液位		○	
脱水汚泥ホッパ重量	○	○	○

（２）浄化センター V V V F 装置点検

項目	R8	R9	R10
No.1 送風量		○	
No.2 送風量		○	
No.3 送風量		○	
返送汚泥量（No. 1、2）		○	
返送汚泥量（No. 3、4）		○	

(3) 浄化センターVS 装置点検

項目	R8	R9	R10
次亜塩素酸ソーダ注入量	○		○
機械濃縮余剰汚泥供給量	○		○
機械濃縮薬品供給量	○		○
脱水機No.1 汚泥供給量	○		○
脱水機No.2 汚泥供給量	○		○
脱水機No.1 薬品供給量	○		○
脱水機No.2 薬品供給量	○		○

(4) 中央監視装置

項目	R8	R9	R10
No.1 LCD μPORT-M5	○	○	○
No.2 LCD μPORT-M5	○	○	○

(5) C V C F 装置、整流器点検

項目	R8	R9	R10
インバーター	○		○
整流器	○		○
蓄電池	○		○

(6) 受変電設備

項目	R8	R9	R10
受変電設備点検		○	

(7) 室ポンプ場点検

項目	R8	R9	R10
流入井水位（投込み式）	○	○	○
ポンプ井汚水ポンプ（ポンプ井水位含む）	○	○	○
送水流量	○	○	○

※計装機器類は、1 回/年実施する。

※ポンプは、2 回/年実施する。

別紙― 9 汚泥等搬出業務要領

1 脱水ケーキを最終処分業者へ引き渡す業務及び脱硫剤の処分業務。

2 脱水ケーキ量の想定値は次表のとおりとする。

単位：t/年

令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	備 考
1,870	1,900	1,930	

3 脱硫剤処分業務は、消化槽から発生する硫化水素を、脱硫設備にて脱硫剤（酸化鉄）で除去し、使用済み脱硫剤を鉄源として処分するものである。

業務内容は、脱硫剤（2,500kg）の詰替え及び処分を年 2.0 回予定する。ただし、回数は受託者が硫化水素濃度検査により判断すること。

なお、1 回に使用する脱硫剤は 2,500kg である。

4 注意事項

（1）脱水ケーキ等の処分は、有効利用を行うこと。

（2）受託者は、最終処分業者へ下水道汚泥の発生工程及び性状を通知すること。

（3）受託者は、下水道汚泥の分析を行い、分析証明書（金属等の検定方法は、「環境庁告示第 13 号」による。）を最終処分業者に通知すること。

（4）受託者は、有効利用状況（セメント材料等）を確認するとともに、引渡し量や金額を伝票（マニフェスト）により、発注者に報告すること。

（5）受託者は、最終処分業者が運搬中に脱水ケーキ等が飛散しないよう配慮するとともに、場内及び一般道路を汚染しないようにすること。

（6）受託者が最終処分業者を変更する場合には、事前に発注者と協議し、許可を得ること。

（7）脱硫剤は、産業廃棄物であるため、受託者は、法の定めにより適切に処分すること。

別紙―10 防火設備保守点検業務要領

- 1 浄化センターについて、消防法第 17 条の 3 の規定に定める定期点検を行う。
- 2 点検回数は、機器点検を半年に 1 回、総合点検を 1 年に 1 回とする。

3 防火対象物の構造・規模

建物名称	構造	地 下	地 上	延床面積 (㎡)
管理棟	耐火	1	2	1,418.17
沈砂池棟	耐火	1	2	427.7
第 2 電気室	耐火		1	202.38
第 2 汚泥処理棟	耐火	1	2	951.87
機械濃縮棟	耐火	1	2	419.92

4 防火設備

(1) 自動火災報知機

機器名	数 量
受信機	18 窓
副受信機	18 窓
感知器差動式スポット型	65 個
感知器定温式スポット型	21 個
煙式スポット型 (光電式非蓄積)	41 個
手動発信機	13 個
地区音響 (ベル)	13 個

(2) 非常用放送設備

機器名	数 量
増幅器	180W
スピーカー	54 個

(3) 誘導灯

機器名	数 量
小型 (10W)	50 台
中型 (20W)	10 台

(4) 消火器

機器名	数 量
粉末式 (A B C 粉末)	53 台
強化液式	3 台
ハロン式	1 台

別紙―11 保守点検業務要領

1 目視作業

機器及び全体の外観を目視し、損傷、亀裂、漏れ、さび及び臭気、音により正常か否かを判断する作業。

例：油漏れ、軸受けの異音、摩耗、シール面の当り、カップリングの空隙、ボルトのゆるみ等

2 触感作業

機器に手を触れ、振動、温度等により正常か否かを判断する作業。

例：振動、グランドパッキン部の過熱等

3 確認作業

各機器の圧力、温度、流量、電流等、機器の指示値を読み、正常か否かを判断する作業であり、目視及び触感作業を含む。

例：電流、電圧、電力、吐出圧、吐出量、回転速度等計器の値を読み、正常か否かを判断する。

4 測定作業

各機器の摩耗状態及び作動が、正常か否か測定計器（温度計、振動計、回転計等）を使用して調べる作業。

例：軸受温度測定、振動測定、絶縁抵抗測定等

5 調整作業

機器の正常状態からのずれを補正するために行う作業。

例：チェーンの張り具合調整、ベルトの張り具合調整、機器の零点調整等

6 点検清掃作業

機器の点検清掃、及び消耗品交換作業。

例：グランドパッキン、メカニカルシール、カップリングゴム、潤滑油の交換、閉塞物、スケール等の除去。

ただし、性能に関わる分解作業は専門メーカーに委託する。

例：ポンプ・回転機器等

7 塗装作業

機器の運転操作盤等の塗装は、経年劣化が見受けられた場合に塗装を行うこと。

例：沈砂池の自動除塵機操作盤、砂ろ過設備操作盤等

ただし、しきホッパー、ろ過設備全体の塗装は、専門メーカーに委託する。

8 記録作業

点検結果を所定の用紙に記録する作業。

必要により計算を行って、機器の状態を判断する。

9 管理棟空調設備点検作業

以下の要領にて管理棟の空調設備点検を行うこととする。

(1) 点検対象施設

対象箇所	対象施設
A C-1 事務所 1 F A C-2 会議室 A C-3 水質試験室 A C-4 管理制御室	室内機 2 台 室外機 1 台 パネル 2 台
A C-5 作業員控室	室内機 1 台 室外機 1 台 パネル 1 台
機械濃縮棟電気室	室内機 1 台 室外機 1 台
脱水污泥棟電気室	室内機 2 台 室外機 2 台

(2) 点検内容

- ・エアフィルター清掃
- ・ガス漏れ点検
- ・電気系統点検、電圧・電流・絶縁測定
- ・温度測定
- ・試運転

10 吊上げクレーン保守点検

(1) 年次点検

以下に挙げる対象施設の年次点検を行うものとする。

対象箇所	仕様
大津町浄化センター	沈砂池 し渣搬出用 0.5 t テルハクレーン
〃	沈砂池 ポンプ用 0.5 t テルハクレーン
〃	し渣搬出設備 0.5 t 天井クレーン
室ポンプ場	ポンプ室 1 t テルハクレーン

(2) 自主点検

以下に挙げる対象施設の自主点検を行うものとする。

対象箇所	仕様
大津町浄化センター	沈砂池 し渣搬出用 0.5 t テルハクレーン
〃	沈砂池 ポンプ用 0.5 t テルハクレーン
〃	し渣搬出設備 0.5 t 天井クレーン
室ポンプ場	ポンプ室 1 t テルハクレーン

1 1 電話設備点検作業

大津町浄化センターに設置の電話設備(CrosCoreL)の保守作業。

別紙—12 性能未達成時の対応方法

性能未達成時の判定は、受託者の報告や発注者の業務監視（運転日報の確認等）により行う。その結果、受託者が流入条件（最大水量、最大水質）の範囲内において、要求水準書に示す目標基準、遵守基準を超えたと判断した場合、以下のフローに示す手続により、是正勧告その他の措置をとることとする。

